

2. 整備事業

(福島県 令和元年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都県の評価	備考
				被災前22年度	1年後(平成28年)	2年後(平成29年)	3年後(平成30年)	目標値(平成30年)	達成率				交付金	都県費	市町村費	その他				
				生産量	生産量	生産量	生産量	生産量	達成率											
相馬市	アイファーム	耕種作物共同利用施設整備(生産技術高度化施設) (トマト、ミニトマト)	震災以前は水稲単一経営であったが、米価の低落等の中、安定的な農業所得の向上を目指すため、多角的経営を行うことにより震災前と同程度以上の収入が得られるようにする。 震災前の収入： 水稲6,435千円 震災後の収入： 水稲1,430千円 トマト1,860千円 ミニトマト4,340千円 (合計7,630千円)	(平成26年度) 生産量 トマト1t ミニトマト0.0t	生産量 トマト10t ミニトマト12t	生産量 トマト19t ミニトマト27t	生産量 トマト20.4t ミニトマト28.56t	94.0%	順調に生産量を伸ばし、成果目標を概ね達成する事ができた。また、震災前以上の所得に達することができた。(収入額7,700千円)	ハウス 8m*8連棟*102m (8*8*102=6,528㎡) カーテン工 一式 暖房工 一式 電気工 一式 トマト栽培システム 一式	108,000,000	50,000,000	32,500,000	0	25,500,000	平成28年4月27日	H28から順調に生産量を回復させ、震災前の生産量以上となり、H30は46tと目標処理量を概ね達成することが出来た。今後も当該柚木地区をトマトの産地としていくとともに、震災前以上に生産量を増やしていく。	生産量は46tとなり、目標は概ね達成された。県としても、目標達成率が100%となるようトマト生産管理について指導及び助言を行いながら、営農活動の回復を支援していく。	H27年度(繰越)事業	
相馬市	合同会社飯豊ファーム	耕種作物共同利用施設整備(乾燥調製施設) (大豆)	乾燥調製施設を復旧するとともに規模拡大により被災前の処理量以上に回復する。	処理量 0t	処理量 84t	処理量 84t	処理量 84t	処理量 84t	100%	順調に処理量を伸ばし、震災前の以上を処理し、成果目標を達成することが出来た。	乾燥調製施設 建屋 324㎡ 荷受ホッパー 1基 粗選機 1基 張込昇降機 1基 遠赤乾燥機 2基 タンク昇降機 1基 放冷タンク 2基 排出昇降機 1基 大豆選別機 1基 製品昇降機 2基 製品タンク 2基 色彩選別機 2基 大豆計量器 2基 小粒昇降機 1基 建築主体工事 一式 電気設備工事 一式 処理量 84.0t	142,560,000	66,000,000	42,900,000	0	33,660,000	平成28年5月31日	H28から順調に処理量を回復させ、震災前の処理量以上となり、H30は84tと目標処理量を達成することが出来た。今後も当該飯豊地区の農地を集積していくとともに、震災前以上に処理量を確保していく。	生産量は84tとなり、目標は達成された。今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き大豆生産管理について助言し、営農活動の回復を支援する。	H27年度(繰越)事業

都県平均達成率	97.0%	県全体の成果目標の達成状況は、各地区（事業）の平均達成率が90%以上であるため「概ね達成」と評価する。引き続き、必要に応じて関係機関と連携し助言を行い、営農活動の回復を支援する。
---------	-------	---

- (注) 1 別紙様式1号の2のIに準じて作成すること。
- 2 要領第1の1の(2)のアの(ア)から(ウ)の場合にあつては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
- 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
- 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
- 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都県全体の総合所見を記入すること。
- 6 「都県平均達成率」欄は、都県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。